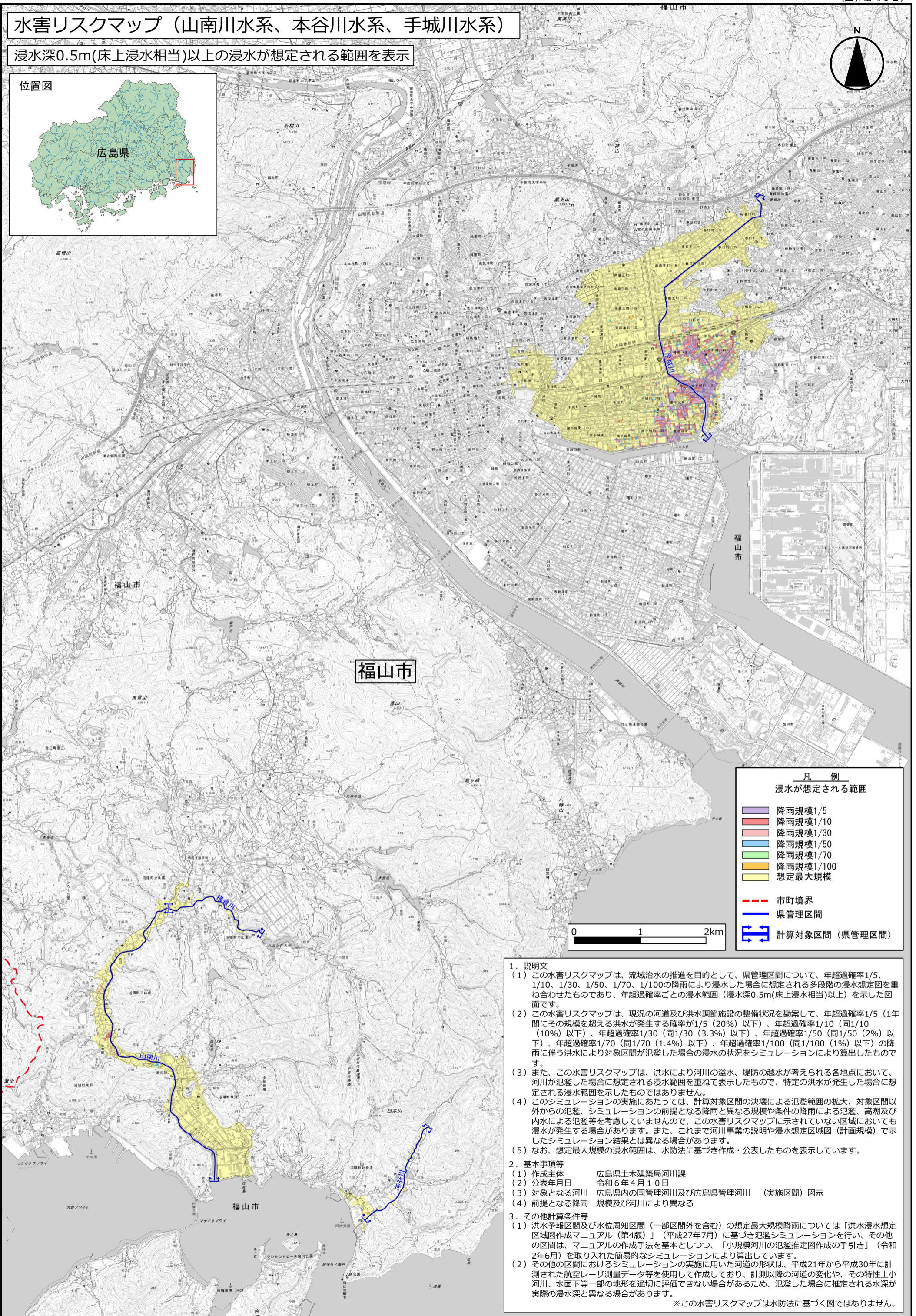


水害リスクマップ (山南川水系、本谷川水系、手城川水系)

浸水深0.5m(床上浸水相当)以上の浸水が想定される範囲を表示

位置図

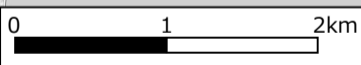


凡例

浸水が想定される範囲

- 降雨規模1/5
- 降雨規模1/10
- 降雨規模1/30
- 降雨規模1/50
- 降雨規模1/70
- 降雨規模1/100
- 想定最大規模

- 市町境界
- 県管理区間
- 計算対象区間 (県管理区間)



1. 説明文
 - (1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、県管理区間について、年超過確率1/5、1/10、1/30、1/50、1/70、1/100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水深0.5m(床上浸水相当)以上）を示した図面です。
 - (2) この水害リスクマップは、現況の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/5（1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/5（20%）以下）、年超過確率1/10（同1/10（10%）以下）、年超過確率1/30（同1/30（3.3%）以下）、年超過確率1/50（同1/50（2%）以下）、年超過確率1/70（同1/70（1.4%）以下）、年超過確率1/100（同1/100（1%）以下）の降雨に伴う洪水により対象区間が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
 - (3) また、この水害リスクマップは、洪水により河川の溢水、堤防の越水が考えられる各地点において、河川が氾濫した場合に想定される浸水範囲を重ねて表示したもので、特定の洪水が発生した場合に想定される浸水範囲を示したものではありません。
 - (4) このシミュレーションの実施にあたっては、計算対象区間の決壊による氾濫範囲の拡大、対象区間以外からの氾濫、シミュレーションの前提となる降雨と異なる規模や条件の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この水害リスクマップに示されていない区域においても浸水が発生する場合があります。また、これまで河川事業の説明や浸水想定区域図（計画規模）で示したシミュレーション結果とは異なる場合があります。
 - (5) なお、想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき作成・公表したものを表示しています。
2. 基本事項等

(1) 作成主体	広島県土木建築局河川課
(2) 公表年月日	令和6年4月10日
(3) 対象となる河川	広島県内の国管理河川及び広島県管理河川（実施区間）図示
(4) 前提となる降雨	規模及び河川により異なる
3. その他計算条件等
 - (1) 洪水予報区間及び水位周知区間（一部区間外を含む）の想定最大規模降雨については「洪水浸水想定区域図作成マニュアル（第4版）」（平成27年7月）に基づき氾濫シミュレーションを行い、その他の区間は、マニュアルの作成手法を基本としつつ、「小規模河川の氾濫推定図作成の手引き」（令和2年6月）を取り入れた簡易的なシミュレーションにより算出しています。
 - (2) その他の区間におけるシミュレーションの実施に用いた河道の形状は、平成21年から平成30年に計測された航空レーザ測量データ等を使用して作成しており、計測以降の河道の変化や、その特性上小河川、水面下等一部の地形を適切に評価できない場合があるため、氾濫した場合に推定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。